

# 議員派遣報告書（閲覧用）

令和5年11月24日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 国枝慎太郎

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

## 記

派遣目的	アメリカとの経済・観光交流に関する事情調査 アルゼンチン・ブラジル 海外連携等調査
行程表、派遣成果	別紙のとおり
県政に活用できる事項	
県担当課	内 容
国際交流課	県人会、日系社会との国際交流を通じた海外戦略に関すること
県産品流通支援課	岐阜県産品のプロモーション及び販路拡大に関すること
収集資料（別添のとおり）	

視察日程

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通機関	日程の概要 訪問予定先名称等	宿泊先
7/24 (月)		アメリカ ロサンゼルス	JL3084 14:40 16:00 JL62 17:20 11:30 専用車 14:00	中部国際空港発 成田空港着 成田空港発 ロサンゼルス国際空港着 JETRO ロサンゼルス訪 問・面談 (ロサンゼルス泊)	ロサンゼルス GKI 関連施設 ※GKI シニア副 会長宅
7/25 (火)	午前 午後	アメリカ ロサンゼルス	専用車 10:30 13:00 19:00	在ロサンゼルス日本国総 領事館訪問・面談 リトル・トーキョー視察 日系人博物館、器の館、 風月堂 ロサンゼルス岐阜県人会 会員との懇談 (ロサンゼルス泊)	同上
7/26 (水)	午前 午後	アメリカ ロサンゼルス	専用車 11:00 13:30	Japan House 視察・面談 アンテナショップ Torio 視 察	同上
7/27 (木)	午前 午後	アメリカ ロサンゼルス	AA4 11:25 20:07 AA953 23:00	ロサンゼルス国際空港 JFK 空港着 JFK 空港発	
7/28 (金)	午前 午後	アルゼンチン ブエノスアイレス	専用車 10:54 13:00 19:00	エサイサ空港着 ポーセラーナ・ツジ工場 視察 アルゼンチン岐阜県人会 創立50周年記念式典 (ブエノスアイレス泊)	NH ホテル・ブエ ノスアイレス・フ ロリダ
7/29 (土)	午後	アルゼンチン ブエノスアイレス ブラジル サンパウロ	LX93 13:30 16:10 19:00	エサイサ空港発 グアルーリョス空港着 県主催レセプション (サンパウロ泊)	ブルーツリー・ プレミアム・パ ウリスタ
7/30 (日)	午前 午後	ブラジル サンパウロ	専用車 8:00 10:00	開拓先没者慰霊碑、日本館 視察 ブラジル岐阜県人会創立 85周年記念式典	

			15:30	日本・ブラジル移民資料館 視察	
			AA950 21:40	グアルーリョス空港発	
7/31 (月)	午前 午後	アメリカ ニューヨーク	JL5 6:30	JFK 空港着	
			JL5 13:30	JFK 空港発	
8/1 (火)			JL209 16:35	羽田空港着	
			JL209 19:10	羽田空港発	
			JL209 20:10	中部国際空港着	

## 議員派遣報告書

○岐阜県議会議員 国枝 慎太郎

○期間 令和5年7月24日～令和5年8月1日 5泊9日

○視察先

- 1.アメリカ合衆国 ロサンゼルス
- 2.アルゼンチン ブエノスアイレス
- 3.ブラジル サンパウロ

○視察の目的

本年度は、コロナ禍以降、古田知事も海外への観光プロモーションを積極的に展開し、県産品の輸出拡大の促進も図るとし、世界各国への訪問を予定されているところです。

これらの岐阜県における国際観光・交流の促進事業、さらには県産品の海外輸出戦略は、私たちが所属する企画経済委員会の所管事業でもあります。

人口減少が進み、日本の経済が縮小する社会において、海外からの観光誘客や県産品の輸出拡大は岐阜県においても重要な政策のひとつであり、所管する企画経済委員しても各事業がどのように実施されているか等を確認し、今後の県政における政策展開に繋げていくこと。さらには昨年組織されたGKIならびに岐阜県にて開催された「岐阜県人会インターナショナル世界大会」を契機とし、交流が深まった県人会の周年事業に副知事と共に参加し、県人会の皆さまと現地にて交流させていただくことで、今後の県産品輸出拡大の戦略や若者の留学や職業体験交流について、GKIの皆さまと共に新たな展開ができないか等を含め関係構築を図る。

## ○ロサンゼルスでの視察(アメリカ合衆国)

1. 日 時 7月24日(月) 14時 ~

視察先 JETRO サンプルショールーム (ロサンゼルス)

面談者 所長 瀧 統 氏、次長 和波 拓郎 氏

「ロサンゼルスの経済とビジネスの現状」と題して、レジュメに基づいて、人口や面積などの都市概要から始まり、日系企業の動向、オリンピック開催準備などの説明を受けました。そして、ジェトロ・ロサンゼルスの役割や管轄エリアなどの概要と若者のアメリカにおけるスタートアップ支援など、最近の動向についても教えていただきました。そのあと「最新の“食”情報のレポート」に基づいて、食文化や他人種構成、物価や日本食人気などについて説明がありました。また、カリフォルニア州は2022年の名目GDPでアメリカ、中国、日本、ドイツに続く世界第5位の経済規模を持つこと等についても説明いただきました。

そしてこのような背景において、岐阜県の県産品の販路拡大に向けて意見交換をさせていただきました。

「多く輸入されている品目は、日本酒110億円、ブリ80億円、和牛60億円、海産物が意外に多いこと、青森県と愛媛県と島根県が連携して海産物を輸出する取り組みをしている。日系人は130万人といわれ、140社の日系スーパーがあるので、どのように対応していくかが鍵となる。」などが、ジェトロからいただいた情報です。

「情報発信力が重要で、SNSやインフルエンサーを活用し販売が功を奏している例が多い。西海岸は市場としては大きいですが、多くの県が販売しようとしていて競争が激しい。マーケットメイクという考え方からすれば、コロラド州がオススめでチャンスが大きい。岐阜県に滞在して仕事をしたことのあるジェットプログラム経験者は、岐阜県の魅力を理解しているので、この人たちとの連携を強めることで、岐阜県の魅力を発信する草の根

運動が有効である」というアドバイスをいただきました。

あらためて、ジェトロとの意見交換において、県産品の海外展開・戦略には、一過性の売り込みイベントのみならず、継続的・地道に売り込みを続けることが重要であり、その費用対効果を考えても現地の県人会の皆さまや岐阜県をよく知るジェットプログラム経験者の皆さまと戦略的に連携し、販路拡大を促進することが効果的であることを学びました。長時間にわたって、多くのアドバイスや取り組み方法を教えていただく事ができて有意義な情報交換でした。



2. 日 時 7月25日(火) 10時30分 ~

視察先 在ロサンゼルス日本国総領事館(ロサンゼルス市内)

面談者 総領事 曾根 健孝 氏

日系人社会の文化や特色、最近の課題などについて教えていただきまし

た。若者の海外でのトライアルがコロナによって阻害されて、より消極的になっている事を懸念されており、岐阜県人会のギフセカ(zoomによる授業)や海外留学支援を紹介していただきました。ジェットロでアドバイスをいただいた「ジェットプロジェクト」は、総領事館が窓口になっていることから、過去に岐阜県で働いた経験者とのコンタクトについてアドバイスをいただきました。相当数の経験者がいるはずなので、受け入れた学校や市町村に働きかけて情報収集をするべきだと感じました。ジェットプロジェクトで岐阜県に関わった外国人は、岐阜県の魅力を理解しているものと考えられ、その人たちからの岐阜県に関する海外への情報発信や魅力発信は、大きな効果や成果を生み出す手段になることを確信しました。

また日本酒の魅力を感じるアメリカ人は多く、輸出拡大が狙える品目です。ただ日本酒にしろ、農産物にしろ、輸出に頼るのみではなく、アメリカ本土にて生産することを意識することも、今後の市場開拓には必要な考え方ではないかとヒントもいただきました。



### 3.リトル東京視察

- 1) 日 時 7月25日(火) 13時 ~  
場 所 全米日系人博物館(ロサンゼルス)  
面談者 渉外担当ディレクター 三木 昌子 氏  
博物館説明者 鈴木 康之 氏

「日系人博物館」では、日本人ガイドの説明のもとで約1時間、移民の歴史と文化、差別との戦い、戦争中の強制収容などについて学びました。最初の移民はハワイであり、その後第二次世界大戦では、強制収容など常に差別との戦いだった事がよく理解できました。お互いに助け合うために県人会は設立された歴史を学び、現在でも活かされていることを感じました。外国人土地法など、不公平さや差別、迫害を受けながらも勤勉さや几帳面さで、日系人が信用を得ていることは嬉しい事実でした。説明書きが全て英語のみだったので、他言語も含めて日本語の説明書きやQRコードを活用した案内が必要だと思いました。

また、この博物館周辺には、日本人の多くが信仰するお寺や宗派もあり、日本同様、お寺を中心に地域コミュニティが形成されていました。日本の歴史同様に、この異国の地においても子供たちにとって最も大切なことは教育の場の提供であり、寺子屋にて教育の場を提供しつつ、今日までの歴史を紡いできたことも知ることができました。岐阜県の子供も達にとっても、この博物館に修学旅行などで訪れることも大切な学びの場となると実感いたしました。





2) 日 時 7月25日(火) 14時 ~

視察先 器の館 (ロサンゼルス市内)

面談者 オーナー桜庭 理恵子 氏

岐阜県出身で県人会会長を務めたこともある方が創業した「器の館」では、多くの陶器が取り扱われていることに驚きました。美濃焼は人気があり、取り扱いも多いですが、コロナ禍から困っていることは、発注から入庫までの期間が1ヶ月だったのが3ヶ月に伸びている。生産体制が高齢化や担い手不足で低下しているために、発注する商品の納入に支障が出ているとの事でした。今後、岐阜県としても県内のみならず、海外で岐阜県産品を取り扱う事業者の相談やニーズを、スピード感をもって聞き取れる窓口等の環境を整備していく必要性を感じました。



3) 日 時 7月25日(火) 15時 ~

視察先 風月堂 和菓子店 (ロサンゼルス市内)

面談者 オーナー 鬼頭 精二 氏

日系人店舗としては歴史があり、岐阜県出身の方が創業して3代目の和菓子屋「風月堂」では、ご商売の話より日系人のコミュニティのお話を聞く事が出来ました。「防犯協会」と名付けられた任意団体を運営している店主は、日系人の警察届け書類の手助けや防犯活動など、いわゆる日本の交番的な業務を、NPO法人として行政と共に活動しつつ、日本人観光客に対しても案内業務などを行っており、まさに地域の顔役として様々な人脈をお持ちの方でした。

リトル東京において毎年盛大に開催されている「Nisei Week Japanese Festival」というイベントを紹介していただきました。パレードには、仙台の七夕祭りや青森のねぶたなどが参加しており、岐阜県として何か参加してはどうかと提案をいただきました。海外に対する魅力発信のひとつとして、地歌舞伎のネット写真を紹介したところ、大きな関心を持っていただきました。岐阜県の県産品の輸出拡大には、岐阜県の誇る伝統芸能とセットで提供できるイベントも重要であることも教えていただきました。

また仙台の七夕祭りのように岐阜県の「祭り」についても大変興味があるとのことでした。ユネスコ無形文化遺産である山・鉾・屋台行事等の岐阜県の独自の文化や伝統の周遊観光は、岐阜県におけるインバウンドにおいても大変有効なツールであることもあらためてわかりました。



4. 日 時 7月25日(火) 19時 ~

視察先 Chart House (ロサンゼルス市内 県人会会員との懇談)

参加者 南加県人会協議会 会長 樋田 まゆみ 氏 (12名)

事務局長 水谷ハッピー 氏  
ジェトロ 和波 真帆 氏  
南加県人会 柚原 章 氏、宮坂浩正 氏、土屋 雅庸 氏、  
野村ともか 氏、松岡こういち 氏、JUN MATSUNO 氏、  
桜庭 理恵子 氏 他

今回の海外視察の大きな目的の1つは、「岐阜県人会インターナショナル」との情報交換でした。南加県人会のメンバー12名が参加して、情報交換会をすることが出来て、とても有意義な会となりました。参加者の1人であり、カリフォルニア工科大学の宇宙物理学者である宮坂浩正教授とは、航空宇宙博物館の話をすることができ、日系人学生が日本の文化や仏教、日本語を学ぶ機会として、岐阜県での研修や短期留学の仕組みづくりについて、具体的に意見交換できました。さらに、私からは若者の理系離れについて意見交換させていただきました。日本の教育の課題は、「高校において、理系コースと文系コースとわかる教育がひとつの課題。数学や科学の難しさではなく、科学のおもしろさや発見のおもしろさを素直に喜べる教育をもっと大切にすべきであり、単純に2択の選択肢をもって分けるべきではない」とご指摘いただきました。

また、岐阜県の神戸町出身であり現在、現地法人にて会計士として働いている土屋雅庸さんからは、「県人会を留学生のホームステイの受け皿として積極的に活用してほしい」との提案をいただきました。日本の保護者の方々に対しても県人会が受け皿ならば安心も提供できる。だからといって日本語ばかりで話さず英語教育も提供できるとの提案でした。若者の交換留学体制に県人会の皆さまと連携することは大変有効的であり費用対効果の大きい政策であると実感いたしました。

また、昨年までジェトロ岐阜の所長をされていた和波真帆さんとは、米国への岐阜県産品の販路拡大の方法についても意見交換させていただきました。また柿やお茶の輸出拡大についても意見交換させていただきました。

が、富有柿については、すでにLAにおいて苗から育てた富有柿が売られているという衝撃的なお話を伺いました。ジェットロでも伺ったように、輸出するのではなく現地にて日本の農業生産を実際に行うことも現実的な手法としてすでに動いており、大変大きく甘い柿は地元でもある人気があるとのことでした。

多治見市出身の映画俳優のJUN MATSUNO氏、器のお店を運営していた元県人会会長夫人の桜庭理恵子氏、ホテル関係者の柚原章氏との意見交換では、美濃焼の器の輸出入について、様々な観点からお話をする事が出来ました。「岐阜県出身者だからこそわかる県産品の良さや魅力をどのように発信するか」という課題について、多くの県人会の皆さんと意見交換する事ができました。またアメリカにて起業を目指す若い県人会の方からは、日本の伝統行事に使用されている「麻」についても大変興味がある様子であり、日本における「麻商品」は今後、まだまだ伸びしろのある分野と感じ、今後の展開を期待したいとの声もいただきました。



5. 日時 7月26日(水) 11時 ~

視察先 Japan House LA

面談者 館長 海部 優子氏

シニア・リエゾン・オフィサー 森田 和頼 氏

Shingo Kato Chef Yoshitaka Mitsue Chef 他

企画展「ポケモン×工芸展」や図書館、多目的ホールなどを館長自らご説明いただきながら、ジャパンハウスの役割や取り組みを詳しく説明していただきました。工芸作家によるポケモンを工芸品に取り入れたコラボレーションは、日本の文化を発信する興味深い取り組みでした。ポケモンは日本のアニメの象徴的な作品のひとつであり、世界共通のキャラクターとして認識されているが、このアニメのキャラクターを日本が誇る伝統工芸作家が日本に伝わる各産地の焼物として作品を製作されていました。それぞれの作品のキャラクターは子ども達にとっても興味深いものであり、そのリアルな姿に感動していました。また大人にとっては、キャラクターについては知らないものの、子ども達から聞くことができ、反対に日本の焼物の素晴らしさを大人達は子ども達に伝えることができると、双方にとって楽しいイベントであり、本当に盛況なイベントでした。岐阜県的美濃焼とポケモンとのコラボ作品も本当に素晴らしい作品でした。このようなアートの的でもあり、日本を代表するアニメと焼物のコラボ作品によって、日本の工芸品の素晴らしさを知っていただき、岐阜県においても美濃焼の認知度もあがることを確証いたしました。焼物の多い岐阜県は海外でも人気があり、今後はその魅力発信の仕方を考えるべきです。

ここジャパンハウスにはキッチンスタジアム付きのホールもあり、食と器によるイベントの開催も可能な場所となっていることから、今後岐阜県としても活用すべきと考えます。

さらにジャパンハウスでは日本料理レストランも同じビルで展開しております。このようなレストランで岐阜県の食材のコース料理、東濃の器、美濃和紙のお品書き、春慶塗のお箸や器、関の包丁などを活用し、お客さんに提供していくことで、県産品の販売促進に繋がっていくのではないかとヒントもいただきました。



6.日 時 7月26日(水) 13時30分～  
視察先 アンテナショップToiro(西ハリウッド)  
面談者 武井モア奈緒子氏 オーナー

店では伊賀焼の土鍋を中心に、日本の食事にあう器を販売されていました。またオーナーである奈緒子さんが鍋料理に合う厳選した日本産の調味料やお米そしてお茶等を揃え販売されております。

岐阜県的美濃焼をはじめ白川茶を香として楽しむことができるキットも販売されておりました。

なぜ土鍋を販売されているのか伺うと、「日本の食文化を代表する調理器具であり、ヘルシーな食事を提供することができる。そして、蒸し料理や燻製など様々な調理に活躍し、土鍋で炊いたご飯を食べることもできる。まさに日本の食文化の象徴の調理器具が土鍋である」と言っておられました。

土鍋を利用した調理レシピ本もセットにしてあり、調味料も同時に売れるとのことでした。

注文は路面店があるハリウッドのみならず、オンラインにてヨーロッパをはじめとする世界中から来るとのことでした。販売価格も100ドル以下の手頃なものから1000ドルを越える高級品まで幅広いものとなっています。

美濃焼も大変人気が高いとのお話でしたし、まだまだ色々な器を探しているとのことでした。お茶や器、岐阜県産品をもっと知りたいと奈緒子オーナーも言っておられました。このようなお店とお茶や焼物の県内産地とのマッチングを如何に進めるかが、今後の岐阜県の課題であるとも認識いたしました。

日本人の焼物に対する金銭的価値観と海外の皆さまの価値観には、かなりの乖離があることもわかりました。岐阜県においても海外向けオンラインショップの可能性は充分にあることも再認識いたしました。



### ○ブエノスアイレス視察(アルゼンチン)

1. 日 時 7月28日(金) 13時 ~

視察先 ポーセラナ・ツジ(辻陶器) (ブエノスアイレス)

面談者 在亜岐阜県人会 辻 麻里子氏 大木 マルティン 氏

岐阜県人会長 永田マリオ 氏

アルゼンチンでは、式典や懇親会の他に、岐阜県出身の創業者が経営する「辻陶器、ポーセラナ・辻」の工場見学をさせていただきました。従業員135人の大きな工場で、創業時は陶器販売で事業を起し、後に日本から技術指導を受けてアルゼンチン有数の製陶会社に発展したそうです。今ではレストラン等の業務用から一般家庭用まで、国内の多くのシェアを占

める企業となったそうです。日本とは違った雰囲気の中で、手作業中心の工程で、若い従業員さんが多いのが印象的でした。経営者ファミリーのご年配の方々から、移民してきた当初のご苦労された話を聞くことができました。課題についてお聞きしたところ、最も大きな課題は、器を焼くための炉において使うガスの安定供給とのことでした。日本が持つプラント技術やオートメーション化による生産性の効率化技術に加え、環境に配慮した再生可能エネルギーを活用した炉の技術提案等、ビジネスチャンスも多くあることも実感いたしました。



2. 日 時 7月28日（金）19時 ～

視察先 在アルゼンチン県人会創立50周年記念式典  
レストラン「エル・ヒ`エホ・アルマセン」

面談者 在アルゼンチン岐阜県人会 永田 マリオ 会長 他、会員70名

在アルゼンチン県人会設立50周年記念式典・夕食会には、岐阜県人会の方を含め約70名が出席し開催されました。永田マリオ岐阜県人会長から、「50周年という大きな節目の時期に、副知事ほか 県の訪問団をお迎えすることができ、大変喜ばしい。」との挨拶がありました。1世の方とお話をする中において、2世、3世の子や孫は日本語は話せないが、日本人として誇りをもっていることを嬉しく思っているとお聞きしました。



今後も彼達に県人会を引き継いでいってほしい思う一方で、日本から移住してくる方は少なく、今後の県人会の存続を懸念しているという声もいただきました。アルゼンチン県人会と岐阜県のひと・もの・お金の交流が盛んになれば、県人会の存在意義と岐阜県にとっても新たな市場の開拓につながるのではないかと、お話を聞きながら実感いたしました。式典において河合副知事から、アルゼンチン社会経済の発展に功績のあった人物として青木グスターボ氏に表彰状が、県人会活動への貢献者として領木政夫氏ほか6名に感謝状が手渡されました。表彰を受けられた皆さまの喜んでいる姿を拝見して、故郷岐阜県を真に県人会の皆さまは大切にいただいていることを感じることができました。100周年に向けて頑張っていることだけ双方努力すべきだと強く思いました。



#### ○サンパウロ視察(ブラジル)

1. 日時 7月29日(土) 19時～

視察先 ジャパンハウス・サンパウロ(県主催レセプション)

面談者 ブラジル岐阜県人会 会長 長屋 充良 氏、県人会役員、  
ジェトロ サンパウロ 原 宏 氏、来賓等60名

ジャンパンハウスにおいて開催された県主催の歓迎レセプションでは、会場内に県産品の展示を行い、参加者に県の魅力をPRすると共に、日本の様々な商品を取り扱っている業者の方と意見交換を行いました。

例えば、木製の工芸品ひとつとってもジャンパンハウスでは、漆等が塗られた工芸品よりも、生木の素材を活かした工芸品が人気高いとのことでした。その理由としては、漆等による作品は中国や韓国のもので似ていると認識があり、木の素材をそのまま活かした家具や提灯などの伝統工芸品のほうが、日本らしさがあると認識され、売れるとのことでした。

まだまだ岐阜県の良いものを知りたいし、取り扱いたいとお話もいただきました。LA同様に今後の県産品とのマッチングが課題であるし、日本では伝統工芸品はアート作品として取り扱っているものを、ブラジルの方々は日常的に使用したいとの思いがあることや、金額的に高級なものにニーズがあることもあらためて知りました。



2. 日 時 7月30日(日) 8時 ~

視察先 開拓慰霊碑ならびに日本館視察(イビラプエラ公園内)

面談者 ブラジル和歌山県人会 会長 谷口ジョセ真一郎 氏

ブラジル富山県人会 会長 市川 利雄 氏

イビラプエラ公園内の「開拓慰霊碑」において、ブラジル富山県人会連合会会長の市川利雄さん、ブラジル和歌山県人会の谷口ジョセ眞一郎さんから日本人の開拓の歴史や開拓慰霊碑建立、そして日本館設立の歴史についてお聞かせいただきました。

毎年6月18日の「移民の日」に慰霊碑参拝が執り行われておりますが、県人会に入っている日系人しかこの慰霊碑の存在や「移民の日」の参拝にも訪れないことは残念であるとのことでした。

ブラジルには多くの日系人が住んでいます。特に3・4世の皆さまに日本人としてアイデンティティーを引き継ぐことが今後の課題でもあるともお聞かせいただきました。

「日本館」においては、日本文化福祉協会理事の栗田クラウジオ氏にご説明いただきました。栗田氏からは日本の建築家である隈研吾氏を指導した内田祥哉氏の師匠にあたる、岐阜県出身の堀口捨己氏が設計に携わったものであり、ジャパンハウス・サンパウロのファサードの設計に大きな影響があったとの説明がありました。「日本館」においては、随所に先人に対する敬意や感謝が感じられ、私たちが訪れた時には、三重県が「忍者」を題材に手裏剣等の展示や三重県観光促進の展示を行っておりました。

また、岐阜県中津川市の中島工務店さんが「日本館」の修復作業等に取り組んでおり、岐阜県に対する感謝の念をもっているの方々が多かったことは、岐阜県民としても大変誇り高いお話でした。



3. 日 時 7月30日(日) 10時 ～

視察先 岐阜県人ブラジル移住110周年・ブラジル県人会創立85周年  
記念式典(ブラジル愛知県人会館)

面談者 ブラジル岐阜県人会 会長 長屋 充良 氏、県人会役員  
在サンパウロ日本国総領事 桑名 良輔 氏 来賓約180名

岐阜県人ブラジル移住110周年・ブラジル県人会創立85周年記念式典においては、在サンパウロ日本国総領事桑名様をはじめ、岐阜県から河合副知事や副議長そしてブラジルに姉妹都市をもつ岐阜市柴橋市長や関市尾関市長も来賓として出席し、大変多くの方々と共に開催されました。また会場の一角では、伝統工芸士の鷺塚浩氏(鷺塚彫刻(高山市))による一位一刀彫のデモンストレーションが行われ、一本の木から形を彫り出す実演に多くの参加者が見入っていました。

さらに会場には岐阜県の農業実習高校生も参加しており、移住の歴史やブラジルの文化に触れ、農業研修のみならず、高校生の皆さまにとっても大変貴重な経験ができたと喜んでおりました。

冒頭には長屋会長より「初期移民の方々の苦難の歴史を、日系人が現在のブラジル社会で勝ち得た信頼への感謝とともに、次世代に繋いでいく役割を

県人会として全うして参りたい。」との挨拶がありました。その後に河合副知事からの挨拶もあり、河合副知事からは、ブラジル社会経済の発展にご功績のあった人物8名に感謝状が手渡されました。

第2部では、岐阜県下呂市出身でありドクターでもあった細江静雄さんの生涯を基にしたドキュメンタリー映像が放映されました。ブラジル移民の生活を支えるため医療的にケアに加え、病院建設にもご尽力し、さらには地域コミュニティーを確保するため子供達に対し、教育的な視点からボーイスカウト事業も立ち上げられました。本事業は現在まで引き継がれており、本式典にはボーイスカウトの皆さまも参加しておりました。岐阜県を代表する偉人の細江静雄さんについて知ることができ、良い機会となりました。

県人会の末裔の皆さまもそれぞれ活躍されているようで、今後、岐阜県でも偉人として顕彰すべきであると思いました。またブラジル県人会長屋会長からは、岐阜県人会と岐阜県とで若者の人材交流を積極的に行う事業に力を入れていただきたいとのオーダーもいただきました。そのような交流を深めることで人材確保と共に双方の文化を知り、産業育成にもつながるのではないかとのご意見でした。





4. 日 時 7月30日(日) 15時30分 ～

視察先 日本・ブラジル移民資料館訪問

面談者 日本文化福祉協会理事 栗田クラウジオ 氏

ロサンゼルスにおいても、移民資料館を訪問しましたが、ブラジルの移民資料館には、当日も大変多くの方々が訪れるということに驚かされました。しかもそのお客さんの多くは日系人や日本人観光客ではなく、ほとんどが現地に住むブラジル人の方々でした。如何に日本人移民や日系人に対し興味があることを知ることができました。また資料館では説明言語もポルトガル語に加えて、英語と日本語の説明がされていました。迫害の歴史をクローズアップしたロサンゼルス移民資料館と違い、移民のご苦労と様々な功績が紹介されていました。「正直、勤勉、真面目という日本人が、移民としての信用を構築してきた歴史」、先人に対する敬意が伝わってきました。日本企業の協賛もあり、定期的な展示内容の変化も資料館の誘客につながっていることだと思いますが、今後岐阜県展を開催するなどし、岐阜県を知っていただく場所として、本館は十分な場所であるとも実感いたしました。

## ○総括

ロサンゼルスにおける視察については、準備段階から全ての視察先への同行まで、元岐阜県人会会長のハッピー水谷さんのご協力で、大変有意義で実りある視察となりました。また、ハッピー水谷さんの築かれた人脈によって、多くの幅広い世代の県人会の皆さまと意見交換させていただくこともできました。また日系人スーパーや韓国系スーパー、アメリカのスーパーなど、人種・生活においてそれぞれ使い分けているスーパーを訪問し、岐阜県や日本の農畜生産品やその他生活品の販売状況や各人の嗜好の違い、そして日本との物価状況の違いも確認し、今後の岐阜県の農畜生産品等の販路拡大の道筋を検討する材料とすることが出来ました。

国際観光や海外での県産品の流通拡大には、一過性のイベントのみならず、継続して粘り強く営業活動を続けていくことが、どの国でも重要であり、そのためには、岐阜県のことを理解し、岐阜県のこと大好きな県人会の皆さまに、岐阜県の営業マンとして協力いただくことも、国際観光・県産品の輸出拡大を促進する政策につながるものと実感いたしました。

そのためにも、昨年岐阜県で開催されたGKI世界大会を契機とするこのGKIの組織と岐阜県との連携は、欠かせないものであるとも思いました。

岐阜県においても、国際交流課や県産品流通支援課、文化伝承課などがより一体となり、どこの部署が旗振り役として先導するかをもう少し明確にすることも必要ではないかとも実感いたしました。

また、アルゼンチンやブラジルのように、岐阜県を含む日本からの移住者はだんだん減少し、日系3・4世が中心となっていく県人会の現実も目の当たりにいたしました。

今後は、若者の留学やインターンシップの交流を深めることで、先祖のアイデンティティーを理解し、県人会の継続的な発展と岐阜県との更なる人的・物的交流の発展に繋がるのではないかとも思いました。

今回の議員派遣での海外視察という貴重な経験を、今後の県政運営に活

かしていくよう努力していく所存です。